

商業（原価計算）

履修単位	4単位	学 年	2年
学科コース	商業科 ・ 簿記会計コース	区 分	必修 ・ 選択
使用教科書	商業720 原価計算（実教出版）		
副教材等	最新段階式簿記検定問題集 全商1級原価計算（実教出版） 全商簿記実務検定模擬試験問題集 1級原価計算（実教出版）		

1. 科目を通じた学習内容と学習目標

<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

2. 授業を受けるにあたってのアドバイス

<p>生徒の皆さん一人ひとりが製造業の経理担当者になったつもりで学習活動を行いますので、製品が製造されていく過程から販売するまでの経理業務を身に付けることができます。原価計算における帳簿や製造原価報告書の作成を通して、「簿記」で学んだ商品売買業の財務諸表（損益計算書や貸借対照表）との違いを明らかにすることができます。</p> <p>また、製造活動を通してビジネスの諸活動を数値の面から考える能力が身につきます。年間の学習を通して各種検定試験の受験も可能になりますので、自ら意欲的に勉学に励みましょう。</p>

3. 科目を通じた評価の観点と評価方法

観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身につけている。	経済社会にあつて、原価計算をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用し、原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用の方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を見いだすとともに、原価情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が身につけている。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力および適切な原価管理をおこなう力の向上を目指して自ら原価計算について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適切な原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度が身につけている。
評 価 方 法	定期考査 単元テスト 練習問題 小テスト 等	定期考査 単元テスト レポート ワークシート 授業への参加状況 等	練習問題 授業への参加状況 等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまり（単元）ごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 年間を通した学習計画

(より詳細な「学習内容・ねらい」・「評価の観点・評価方法」等については、各単元の最初の授業等で説明します。)

知識・技能=【知技】 思考・判断・表現=【思判表】 主体的に学習に取り組む態度=【態度】

学期	単元の学習内容	単元の学習目標 (ねらい)	単元の評価規準	主な評価の観点			備考
				知技	思判表	態度	
1 学期	第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算	<ul style="list-style-type: none"> 工業簿記は製造業に適用されるものであることを理解させる。 工業簿記と原価計算の関係を理解させる。 原価の意味(製造原価・総原価)を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 製造業の特徴や原価の基本的な内容について理解している。 	○			
			<ul style="list-style-type: none"> 工業簿記と原価計算の関係について理解し、適用される場面を思考・判断することができる。 		○		
			<ul style="list-style-type: none"> 製造業における原価計算と工業簿記に興味を示し、自ら学習しようとする態度が見られる。 			○	
	第2章 原価計算のあらまし	<ul style="list-style-type: none"> 原価要素の性格とその分類について理解させる。 原価要素の集計のしかたと原価計算表の役割を理解させる。 原価計算の四つの目的について理解させる。 原価計算の手続きについて理解させる。 原価計算期間について理解させる。 原価計算の種類を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 原価要素の性格とその分類について理解している。 原価要素を集計する過程で原価計算表の役割を理解している。 	○			
			<ul style="list-style-type: none"> 原価計算の目的について理解し、どのような場面で活用されるかについて、思考・判断し、それを表現する仕方を身に付けている。 		○		
			<ul style="list-style-type: none"> 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 			○	
	第3章 工業簿記-製造業における簿記-	<ul style="list-style-type: none"> 工業簿記における勘定記入の特徴を理解させる。 工業簿記に特有な勘定科目とそれぞれの記帳方法を理解させる。 工業簿記の一連の記帳手続を学習させることにより、全体的な構造を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 工業簿記における勘定記入の特徴を理解し、一連の流れを記帳することができる。 	○			
			<ul style="list-style-type: none"> 製造直接費と製造間接費の区別の必要性や、製造活動に関わる勘定の特性について考え、表現することができる。 		○		
			<ul style="list-style-type: none"> 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 			○	
	第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費の計算	<ul style="list-style-type: none"> 材料費の分類とその内容を理解させる。 材料費の仕入れと記帳方法、元帳への転記を理解させる。 材料の保管について理解させる。 棚卸減耗の意味とその処理方法を理解させる。 材料の消費と記帳方法、原価元帳への記入方法について理解させる。 材料の消費単価と消費数量の計算方法について理解させる。 予定価格により、消費高を計算することの意味、予定価格を用いた二通りの記帳法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料費の分類とその内容を理解している。 材料の仕入、消費に関わる処理を理解、適切に記帳することができる。 	○			
			<ul style="list-style-type: none"> 予定価格により消費高を計算することの意義について思考し、予定価格を用いた二通りの記帳ができる。 		○		
			<ul style="list-style-type: none"> 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 			○	
第5章 労務費の計算	<ul style="list-style-type: none"> 労務費の分類とその内容を理解させる。 賃金支払高の計算と記帳方法を理解させる。 賃金消費高の計算と記帳方法を理解させる。 予定賃率による消費賃金の計算と記帳方法を理解させる。 賃金以外の労務費の種類、その計算と記帳方法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 労務費の分類とその内容を理解している。 労務費の計算方法と記帳方法を理解し、適切に記帳することができる。 	○				
		<ul style="list-style-type: none"> 賃金支払高の計算期間と賃金消費高の計算期間のずれについて理解し、賃金勘定と関連付けて表現することができる。 		○			
		<ul style="list-style-type: none"> 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 			○		
第6章 経費の計算	<ul style="list-style-type: none"> 経費の意味とその分類を理解させる。 経費の消費高の計算と記帳方法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 経費の分類とその内容を理解している。 経費の消費高を計算できる。 	○				
		<ul style="list-style-type: none"> 経費の消費高の計算において、なぜ3分類するのか、合理的な記帳法はどのようなものかについて考え、適切に判断・表現して学習を進めている。 		○			
		<ul style="list-style-type: none"> 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 			○		

2 学 期	第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算	<ul style="list-style-type: none"> ・個別原価計算のしくみを理解させる。 ・原価計算表の記入方法を理解させる。 ・原価元帳と製造勘定の関係を理解させる。 ・製造間接費の配賦についての概要を理解させる。 ・実際配賦率による配賦の欠点を説明し、予定配賦率による配賦を理解させる。 ・製造間接費の差異分析を理解させる。 ・仕損品・作業くずの処理を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原価元帳と仕掛品勘定の関係を理解できている。 ・個別原価計算のしくみを理解し、原価計算表に記入ができる。 ・仕損品、作業くずの処理が理解できている。 	○				
			<ul style="list-style-type: none"> ・製造間接費の配賦方法について理解し、適切に配賦を行える。 ・実際配賦の欠点を説明でき、予定配賦による記帳を行える。 		○			
			<ul style="list-style-type: none"> ・個別原価計算の記帳方法について関心を持ち、意欲的に記帳に取り組むことができる。 			○		
	第8章 部門別個別原価計算	<ul style="list-style-type: none"> ・部門別個別原価計算の必要性を理解させる。 ・原価部門の設定について部門別計算の目的から考えさせ、各部門の役割を理解させる。 ・部門別個別原価計算の手続きの全体の流れを理解させる。 ・部門費配分表、部門費振替票を作成させ、それぞれにもとづく仕訳を、マスターさせる。 ・製造部門費予定費配賦表を作成させ、それぞれにもとづく仕訳を、マスターさせる。 ・部門別個別原価計算の全体的な流れを再確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部門別個別原価計算の必要性が理解できている。 ・部門費配分表、部門費振替票を作成でき、それぞれにもとづく記帳ができる。 	○				
			<ul style="list-style-type: none"> ・原価部門の設定について部門別計算の目的から考え、各部門の役割について表現できる。 		○			
			<ul style="list-style-type: none"> ・本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 			○		
	第9章 総合原価計算	<ul style="list-style-type: none"> ・生産形態の違いから、原価計算の方法も異なることを理解させる。 ・個別原価計算と総合原価計算の違いを明らかにする。 ・総合原価計算の種類を理解させる。 ・単純総合原価計算が用いられる製造業の特徴と手続きの流れを理解させる。 ・月末仕掛品完成品換算数量・加工費・加工進捗度などの用語の意味を理解させる。 ・平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算をマスターさせる。 ・単純総合原価計算表の作成と記帳法に習熟させる。 ・等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算のしくみを理解させ、等級別総合原価計算表の作成に習熟させる。 ・組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解させ、組別総合原価計算表の作成に習熟させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単純総合原価計算が用いられる製造業の特徴と手続きの流れが理解できている。 ・平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算ができる。 ・等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算のしくみを理解し、等級別総合原価計算表を作成できる。 ・組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解し、組別総合原価計算表を作成できる。 	○				
			<ul style="list-style-type: none"> ・生産形態の違いから、原価計算の方法が異なることを理解し、個別原価計算と総合原価計算の違いを説明することができる。 		○			
			<ul style="list-style-type: none"> ・本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 			○		
	第10章 工程別総合原価計算	<ul style="list-style-type: none"> ・工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解させる。 ・工程別総合原価計算表の作成を通して、工程別総合原価計算のしくみを理解させる。 ・工程別総合原価計算の手続きと記帳方法を理解させる。 ・半製品の意味と半製品がある場合の記帳方法について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解できている。 ・工程別総合原価計算の手続きにもとづき記帳ができる。 	○				
			<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、工程別計算を行うのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。 		○			
			<ul style="list-style-type: none"> ・本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 			○		
第11章 総合原価計算における減損・仕損 じなどの処理	<ul style="list-style-type: none"> ・減損の意味と、それが発生した場合の処理方法を理解させる。 ・副産物・作業くず・仕損品の意味と、それぞれが発生した場合の記帳方法について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・減損の意味と、それが発生した場合の処理方法について理解し、月末仕掛品原価の計算ができる。 ・副産物、作業くず、仕損品の意味と、それぞれが発生した場合の記帳方法について理解している。 	○					
		<ul style="list-style-type: none"> ・総合原価計算における減損・仕損じなどはどのように処理するのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。 		○				
		<ul style="list-style-type: none"> ・本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 			○			

3 学 期	第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売	<ul style="list-style-type: none"> 製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法を理解させる。 販売費及び一般管理費の記帳方法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法が理解できている。 販売費及び一般管理費の記帳方法が理解できている。 	○				
			<ul style="list-style-type: none"> 財務諸表の特色を理解し、製造原価報告書の作成ができる。 		○			
				<ul style="list-style-type: none"> 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 			○	
	第13章 決算と本社・工場間の取引	<ul style="list-style-type: none"> 月次決算の意味と年次決算との関連について理解させる。 財務諸表の特色を理解させ、製造原価報告書の作成に習熟させる。 工場会計の独立と、その記帳方法について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 工場会計の独立を理解し、記帳ができる。 製造業の決算の特徴を商品売買業の決算と比較して考えたり、本社工場間の取引の記帳を本支店間の取引と比較して考えている。 	○				
				<ul style="list-style-type: none"> 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 			○	
	第5編 標準原価計算の基礎 第14章 標準原価計算（その1）	<ul style="list-style-type: none"> 標準原価計算が原価管理に役立つ理由を知らせる。 標準原価計算の意義と特色、全体的な流れを理解させる。 完成品と仕掛品の標準原価による計算方法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 標準原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。 標準原価計算により完成品原価や月末仕掛品原価が計算できる。 	○				
			<ul style="list-style-type: none"> なぜ、原価標準を設定するのかについて理解している。 			○		
			<ul style="list-style-type: none"> 原価管理について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢が見られたか。 				○	
	第15章 標準原価計算（その2）	<ul style="list-style-type: none"> 原価差異の計算とその分析方法を理解させる。 標準原価計算の記帳方法を理解させる。 標準原価計算による損益計算書の作成方法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> パーシャルプラン、シングルプランによる記帳ができている。 原価差異の算出ができ、その結果から差異の原因について適切に分析することができる。 	○				
			<ul style="list-style-type: none"> 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 				○	
	第6編 直接原価計算の基礎 第16章 直接原価計算（その1）	<ul style="list-style-type: none"> 直接原価計算が利益計画に適している理由を知らせる。 直接原価計算表の意義と特色を理解させる。 直接原価計算による損益計算書の組み立て方を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 直接原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。 直接原価計算による損益計算書の形式を理解し、作成できる。 	○				
			<ul style="list-style-type: none"> 利益計算について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢がみられる。 				○	
第17章 直接原価計算（その2）	<ul style="list-style-type: none"> CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係を理解させる。 高低点法を用いた原価予測の方法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係が理解できている。 損益分岐点を求めることができる。 高低点法による原価予測ができる。 	○					
		<ul style="list-style-type: none"> 損益分岐点比率と安全余裕率の意味を理解し、求めることができる。 			○			
		<ul style="list-style-type: none"> 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 				○		
		<ul style="list-style-type: none"> 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 				○		